

## 令和4年度 第1回 館山市子ども・子育て会議 要録

1 委員会名 館山市子ども・子育て会議

2 日 時 令和4年12月12日(月) 14:00～15:40

3 会 場 市役所本館2階会議室

4 出席委員 石渡委員長、齋藤委員、小峰委員、菊井委員、田中委員  
清宮委員、石垣委員、鈴木委員、能重委員、亀田委員

5 事務局 教育部長、こども課長、副課長(幼保係長)、子育て支援係長、  
吉田主任主事、黒川主事、小野寺主事

6 会議次第

1 開 会

2 委員自己紹介

3 議 事

(1) 令和3年度子ども・子育て支援事業実施状況について【資料①、②】

(2) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

(3) 北条地区での認定こども園化の推進について

(4) 質疑・意見交換

(5) その他

7 閉 会

## ■議事

- (1) 令和3年度子ども・子育て支援事業実施状況について【資料①、②】  
こども課子育て支援係長より報告

## ■意見交換の詳細

- (能重委員) 健康課が行っている産後ケア事業も実施状況報告に載せた方がよいのではないか。また、県北で産後ケア事業を行っているところは、双子の場合の料金案内があるが、館山市はないので、双子の利用についても市民にわかりやすくした方がよいと思う。
- (課長) 産後ケア事業は元々計画にあったものではないので、載せていない。ただ、もし他の事業名の中で当てはめられるものがあれば、健康課に伝える。多胎児についても、意見をいただいたことは伝える。
- (鈴木委員) 資料①の5番こども課の乳幼児保育の実施について、評価が『低年齢児の保育充実には多数の保育士の配置が必要となるが、低年齢児の希望園への待機が生じている。』幼稚園では定員割れをしているが、保育園の低年齢では待機が出ている。定員割合などの見直しを少し進めたほうがよいと思う。
- (課長) 乳幼児保育ということで、生後57日以降からの預かりを進めている。産休明けという対応になるが、そこに書いてあるとおり年度当初であれば、希望園への入所が可能だが、年度後半になってくると、保育士の保育施設の割合で受け入れが難しくなっている状況。かたや幼稚園教育の方は、定員には余裕があるが、職員数とクラス単位との設定があるため、定員が余っているからといって保育施設の方にはまわせる状況でない。そのため保育士を随時募集はしているが、なかなか達成できずに年度末になると受け入れが難しい状況になってしまうので、今回厳しめのD評価としている。希望園以外では受け入れできる状況ではあるが、本当の市民のニーズに答えられていないということもあり、厳しめの評価にしている。
- (鈴木委員) 人口の多いところ、そうでないところで子どもの数も違う。例えば、住まいも勤務先も北条地区の人が西岬まで子供を預けに行くのは、子どもが小さければ大変なので、やはり見直してほしいと思う。
- (齋藤委員) 純真保育園が段階的に受入を停止していると思うが、保護者などへ説明会を実施した等の実績も載せればよいと思う。
- (課長) 施設の利用者と地区長等には説明したが、これから入園を想定している人には伝えきれていない。

## ■議事

- (2) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて  
こども課子育て支援係長より説明
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響により、平常時の実績の想定が困難なため、今年度は見直しを行わず、次年度以降に状況に応じて実施していく。

## ■意見交換の詳細

(委員長) 意見がないため、事務局の説明通りに進めていく。

■議事

(3) 北条地区におけるこども園化の推進について(資料③)  
こども課副課長より説明

■意見交換の詳細

(石垣委員) 事業者側が保育園部分と調理施設も建てることを期待しているのか。

(課長) 3歳未満は自園調理が原則のため、調理施設と3歳未満のお子さんのための保育施設の整備が必要になる。令和6年度であれば補助金を使って施設整備ができるので、6年度の建築を目指して公募を進めていきたい。

(能重委員) 12月に説明会とあるが、これは終わっているのか。

(課長) 該当する園の保護者と職員、私立保育園、私立幼稚園の運営者には説明をした。好意的な意見もあれば、配慮が必要な意見もあった。  
説明会での主な意見を紹介。  
該当園職員：在園児だけでなく、適宜適正に幅広く丁寧に説明してほしい。民営化しても保育の質を下げないでほしい。卒園児にも配慮してほしい。  
私立園：新しく開園する園とは既存の保育サービスの棲み分けができる、それは望ましいこと。保育士、園児を取り合うということにならないよう配慮してほしい。現状の定員が、そのまま2つ合わせての定員設定になるが、この定員設定が適切なのか。  
該当園保護者：この事業を進める上で色々な情報がでてくるだろうから、細かく教えてほしい。出来れば慣れている先生に担当してもらえると嬉しい。私立のほうの指導もしっかりしてほしい。私立園の経済的な負担が心配なので、配慮するように。  
今後事業者が決まり、協議をすすめていく中で、意見を盛り込んでよい園になるように進めていきたいと考えている。

(亀田委員) 北条幼稚園の説明会については、前日の昼間にまちこみメールで説明会の案内がきた。働いている保護者に翌日の夕方に集まれというのは無理がある。それで全員に説明が終わりましたと言われては困る。

(課長) 11月25日のお迎えのときに園から案内を渡せるように用意した。25日に渡せなかった保護者には28日に渡している。説明会は12月8日に行った。前日の連絡は園から改めてのお知らせだと思う。

(能重委員) 園から渡すところということが起きるので、大事な説明会の案内であればこども課から直接保護者に郵送してほしい。公募の仕方はどうするのか。

(課長) 広報や市ホームページでと考えている。

(亀田委員) 条件等はきまっているのか。

(課長) 今後詳細を決めていく。

(石垣委員) 補助金は私達の血税。もちろんこども園化するメリットはあるが、そこまで税金をかけていいのか。1月中旬に公募が始まって、3月中には事業者が決まる想定だが、スケジュールに無理があるのではないか。

(亀田委員) 募集対象は市内の業者か。

(課長) 市外、県外でも構わない。

- (能重委員) 利用する側は保育料・給食費など不安がある。細やかな情報通知をこども課からしてほしい。
- (齋藤委員) 市の財政を考えれば複合は正解だと思う。市と事業者がうまくやっていると心配だが、トライするべきだと思う。
- (鈴木委員) 館山市は保育の質が高いので、私立になっても引き継いでほしい。他の私立園へも配慮してほしい。
- (亀田委員) 保育士の確保はどう考えているのか。
- (課長) 事業主が雇用条件を決めて雇うことになる。条件等によっては転職する人もでてくるかもしれないが、その辺りは協議が必要。
- (小峰委員) 会計年度職員の中には、質の高い保育士がたくさんいる。あえて会計年度職員になっている人もいるので、職員にも配慮してほしい。もっと早く園職員にも伝えて、一緒に考えたかった。
- (委員長) よほどの反対がない限りはこの計画を進めることを前提としている。もっと細かく丁寧に進めた方がよいのではというのが皆さんの意見。時間の関係もあるので、改めて中身を確認しながら話し合う機会をもう一度作りたい。子どもたちの未来の話なので、しっかり話し合っただけで結論を出すのが、子ども・子育て会議の使命だと思う。

#### ■ 議事

##### (4) その他

- (能重委員) 『健やか保育 21』には“認定こども園は、保護者が働いている、いないに関わらず利用できます。保護者の就労状況が変化しても、継続して利用できます。”と載っている。就労していないとこども園に入れないと思うが。
- (課長) こども園は幼稚園と保育園が一緒になっているものなので、保護者が就労している方は保育認定を受けている。例えば途中で退職しても教育認定になり、9時から2時、9時から3時まで幼稚園の認定で利用できる。それ以降の時間も有料の預かり保育を利用できる。